

牛久市教育委員会 4 月定例会会議録

1. 日 時 平成 28 年 4 月 25 日 (月) 午後 2 時
2. 場 所 ひたち野リフレ 第 1 会議室
3. 出席委員 後藤 雅宣・石井 美知夫・芦田 亜里香・五十嵐 登喜子・染谷 郁夫
4. 委員以外
の出席者 教育部長 川井 聡
次長 飯野 喜行
次長 杉本 和也
教育総務課 課長 川真田 英行
指導課 課長 村松 美一
放課後対策課 課長 吉田 茂男
文化芸術課 課長 手賀 幸雄
生涯学習推進室 室長 横瀬 幸子
中央図書館 館長 関 達彦
スポーツ推進課 課長 齋藤 勇
教育総務課 課長補佐 富田 真幸
教育総務課 課長補佐 戸塚 美幸
教育総務課 課長補佐 森田 明
教育総務課 課長補佐 高野 裕行
指導課 課長補佐 山口 明
文化芸術課 課長補佐 永沼 智子
スポーツ推進課 課長補佐 飯島 美博
スポーツ推進課 課長補佐 高橋 頼輝
5. 欠 席 生涯学習推進室 室長補佐 山越 義弘
6. 会議録署名人 石井 美知夫
7. 議 題 議案第 20 号 牛久市コミュニティ・スクール推進委員会設置要綱の制定について
議案第 21 号 平成 28 年度牛久市少子化・人口減少社会に対応した活力ある学校教育
推進協議会委員の委嘱・任命について
議案第 22 号 平成 28 年度牛久市学校評議員の委嘱について
議案第 23 号 牛久市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則について
議案第 24 号 ひたち野うしく小学校プール施設等の開放に関する規則の一部を改正す
る規則について
議案第 25 号 牛久市教育委員会事務決裁規程の制定について
議案第 26 号 牛久市教育委員会処務規程の一部を改正する訓令について
議案第 27 号 平成 28 年牛久市コミュニティ・スクール推進委員会委員の委嘱、任命
について

7. 報告事項 報告第 9号 牛久市放課後対策施設の設置及び管理に関する条例施行規則の一部を改正する規則について
8. 協議事項 牛久市立第一幼稚園の運営について

後藤委員長	<p>平成28年度第1回会議のため各委員、事務局職員自己紹介を行う。</p> <p>(あ い さ つ)</p> <p>開会を宣言する。 会議録署名人 石井 美知夫 委員を指名する。</p>
後藤委員長	<p>それでは早速議事に入らせていただきます。</p> <p>議案第20号「牛久市コミュニティ・スクール推進委員会設置要綱の制定について」及び議案第27号「平成28年度牛久市コミュニティ・スクール推進委員会委員の委嘱・任命について」、これらは関連する議案ですので、事務局より一括して説明をお願いいたします。</p>
放課後対策課長	<p>議案第20号「牛久市コミュニティ・スクール推進委員会設置要綱の制定について」並びに議案第27号「平成28年度牛久市コミュニティ・スクール推進委員会委員の委嘱・任命について」は関連がありますので、あわせてご説明させていただきます。</p> <p>まず、議案第20号「牛久市コミュニティ・スクール推進委員会設置要綱の制定について」は、奥野小学校におけるコミュニティ・スクール導入促進事業を推進するに当たり、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第47条の5の規定に基づき設置する学校運営協議会の設置を推進するため、コミュニティ・スクール推進委員会を置くための要綱であります。</p> <p>当推進委員会は、1 学校運営協議会の委員、役割、開催日数、協議内容等の会議の運営に関する事項、2 学校運営協議会制度の趣旨等について理解を得るための説明会、研修会等の広報活動に関する事項、3 学校、地域、家庭及び他機関・組織が連携及び協働して子供の教育活動を支援するための仕組みづくりに関する事項を所掌し、別添の実施計画に基づき、計7回の会議を開催する予定であります。</p> <p>なお、委員は学識経験者、PTA関係者、教職員、その他教育長が必要と認める者の中から20名以内で組織され、1回当たり3,000円の謝金を支出させていただきます。</p> <p>続いて、議案第27号は、議案第20号の推進委員会の委員の委嘱・任命に</p>

	<p>ついてでありまして、学識経験者3名、PTA関係者4名、地域の代表者4名、学校・地域コーディネーターの方3名の計14名を委嘱するとともに3名の教職員を任命するものであり、議案第20号と併せて委員会の同意を求めるものであります。</p> <p>以上でございます。</p> <p>議案第20号及び議案第27号についての質疑を受けるが質疑なし。 出席委員全員の賛成を得る。</p>
後藤委員長	<p>次に、議案第21号「平成28年度牛久市少子化・人口減少社会に対応した活力ある学校教育推進協議会委員の委嘱・任命について」事務局より説明をお願いいたします。</p>
指導課長	<p>指導課です。</p> <p>それでは、議案第21号につきましては、山口補佐のほうからご説明いたします。</p>
指導課課長補佐	<p>議案第21号「平成28年度牛久市少子化・人口減少社会に対応した活力ある学校教育推進協議会委員の委嘱・任命について」ご説明いたします。</p> <p>昨年度、文部科学省の指定を受けました少子化・人口減少社会に対応した活力ある学校教育推進事業におきまして、推進協議会の委員を委嘱・任命するものであります。今年度6番の奥野小学校校長と14番の教育委員会の次長が替わりましたので、6番は青木進校長先生に、14番は飯野次長に委員を任命しております。ご審議お願いいたします。</p> <p>議案第21号についての質疑を受けるが質疑なし。 出席委員全員の賛成を得る。</p>
後藤委員長	<p>続きまして、議案第22号「平成28年度牛久市学校評議員の委嘱について」事務局より説明をお願いします。</p>
教育総務課長	<p>議案第22号「平成28年度牛久市学校評議員の委嘱について」は、担当の富田補佐よりご説明申し上げます。</p>

<p>教育総務課課長 補佐（富田）</p>	<p>それでは、議案第22号「平成28年度牛久市学校評議員の委嘱について」 ご説明いたします。</p> <p>平成28年度の学校評議員につきましては、既に3月定例会におきまして各 小中学校から推薦があり承認をいただいております。今回、新たに2人の追加 と1名の方の変更がありましたので、定例会にお諮りするものです。</p> <p>まず神谷小学校ですが大貫研二さんの推薦が追加でありました。こちらは3 月の定例会で3名の方の承認を受けたのですが、非常に適任の方であるとい うことで神谷小学校から追加で推薦したいということがありました。大貫さん につきましては、牛久市内で造園業を営んでいる方で、神谷小学校の児童の元保 護者でもあり地域の方からの信頼も厚く、地域や保護者の声をまとめた意見も いただけるということで、推薦をいただいております。</p> <p>続きまして、牛久一中ですが、去年は3名の方に委嘱をしておきまして、そ の一人である牛久栄進高校の校長先生をしていました加茂川裕昭さんが4月に 異動になりました。新たに後任の小沼和美先生を推薦したいということが牛久 一中のほうからありましたので、今回お諮りするものです。</p> <p>もう1名の方なのですが、牛久二中の吉田正一さんです。3月のときに承認 をいただいた方が、4月になりまして個人的な都合によって学校評議員を退任 したいという届け出があったということで、かわりに吉田正一さんを牛久二中 のほうで推薦したいということでありましたので、今回ご審議いただくもの です。吉田さんにつきましては元PTAの会長で、牛久二中の教育推進のため尽 力され、現在は青少年相談員として地域の青少年育成に貢献されています。ま た、知識経験も豊富で地域の代表として意見をいただけるということで牛久二 中から推薦がありました。</p> <p>以上でございます。よろしく申し上げます。</p>
<p>後藤委員長</p>	<p>議案第22号についての質疑を受けるが質疑なし。 出席委員全員の賛成を得る。</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>続きまして、議案第23号「牛久市教育委員会事務局組織規則の一部を改正 する規則について」事務局より説明をお願いいたします。</p> <p>議案第23号「牛久市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則につ いて」は、富田補佐よりご説明申し上げます。</p>
<p>教育総務課課長 補佐（富田）</p>	<p>それでは、議案第23号「牛久市教育委員会事務局組織規則の一部を改正す る規則について」ご説明いたします。</p>

	<p>議案第23号につきましては、平成28年度より新たに教育総務課で行うことになる事業がありますので、こちらを他の業務の中につけ加えさせていただきますのものであります。</p> <p>まず、2ページをご覧になっていただきたいと思います。</p> <p>真ん中くらいに(8)番「小中学生模擬議会に関すること」という事業があります。こちらにつきましては、昨年度まで市民活動課で行っていた事業なのですが、小中学生に対する模擬議会ということで平成28年度からは教育総務課が所管で行うことになりました。そのため、新しく教育総務課のほうの事業に追加させていただきました。</p> <p>また1ページめくっていただきまして、次に3ページなのですが、(39)「ひたち野うしく地区の中学校建設に関すること」とあります。こちらにつきましても新たに平成28年度より教育総務課のほうで行っておりますので、改めて部署の別表に加えまして教育総務課の事業ということで規定させていただきました。</p> <p>(28)「通学路の安全に関すること」なのですが、こちらにつきましては今まで教育総務課のほうでずっと行っていたものなのですが、こちらの表に載っていなかったということで、改めて教育総務課の事業ということでこちらの別表につけ加えさせていただきました。</p> <p>以上、3点を新しい事業としてつけ加えさせていただきました。</p>
後藤委員長	<p>議案第23号についての質疑を受けるが質疑なし。 出席委員全員の賛成を得る。</p>
	<p>続きまして、議案第24号「ひたち野うしく小学校プール施設等の開放に関する規則の一部を改正する規則について」事務局より説明をお願いいたします。</p>
スポーツ推進課長	<p>議案第24号「ひたち野うしく小学校プール施設等の開放に関する規則の一部を改正する規則」につきましては、障害者の利用者負担金の減免について追加するものでございます。詳細につきましては、担当の高橋課長補佐から説明いたします。</p>
スポーツ推進課長補佐(高橋)	<p>私のほうからは、議案第24号「ひたち野うしく小学校プール施設等の開放に関する規則の一部を改正する規則について」ご説明いたします。</p> <p>これまで、利用者負担金ということで減免の規定というものが第6条にありました。しかしながら、これは市が事業として使う場合または市の教育委員会が事業として使う場合、その他特に教育委員会が認めた場合の3点に限られておりました。これにつきまして、牛久市公園条例のほうでも規定がなされてお</p>

	<p>ります身体障害者手帳をお持ちの市内在住の方につきましては個人の部分での減免の規定を追加するものとなっております。よろしくお願いいたします。</p> <p>議案第24号についての質疑を受けるが質疑なし。 出席委員全員の賛成を得る。</p>
後藤委員長	<p>続きまして、議案第25号「牛久市教育委員会事務決裁規程の制定について」及び議案第26号「牛久市教育委員会処務規程の一部を改正する訓令について」ですが、これらは関連する議案ですので、事務局より一括して説明をお願いいたします。</p>
教育総務課長	<p>議案第25号「牛久市教育委員会事務決裁規程の制定について」及び議案第26号「牛久市教育委員会処務規程の一部を改正する訓令」につきまして、担当の富田補佐よりご説明申し上げます。</p>
教育総務課課長 補佐（富田）	<p>牛久市教育委員会事務決裁規程の制定についてでございますが、今まで教育委員会には事務決裁規程がございませんでした。財務に関する件につきましては、市長の権限に属する事務の補助執行に関する規程という市長部局にこういった規程がありまして、契約でありますとか伝票の起票につきましては、こちらを適用して決定してまいりました。しかしながら、ページをめくっていただきまして3ページなのですが、人事に関する事項それから文書その他に関する事項、それから次のページで個別専決事項ということで各課の個別事業の専決規程等、こういったものは今まで教育委員会にはございませんでした。今回、市長部局で事務決裁規程が改正になったことをきっかけに教育委員会でも事務決裁規程を制定するというので今回お諮りするものです。</p> <p>議案第26号につきましては、「牛久市教育委員会処務規程」に教育部長の決裁規程がありますが、それを今度「牛久市事務決裁規程」のほうで新たに規定しますので、この部分を削除するというものでございます。</p> <p>以上です。よろしくお願いいたします。</p>
教育長	<p>(1)の人事に関する事項の一番下に「備考」とありますが、「県費負担職員においては、指導課長を5級とみなし、それ以外の職を4級とみなす」ということを少し詳しく説明してもらっていいでしょうか。</p>
教育総務課長	<p>これにつきましては、市長部局に準じる形で級を定めましたが、教育委員会に市長部局の給与体系の職員とは別に県費負担の職員がいらっしゃいます。指</p>

	<p>導課の職員の方になります。この方の年次休暇並びに特別休暇等についても決裁規程を設けるに当たり、その部分の調整のために指導課長を課長級のところとみなして、それ以外の職を4級以下とみなすという形のみなし方をしました。これについては、法制のほうと確認をとった上でこういう表現の仕方しかないかなということで行っております。</p> <p>以上です。</p>
教育長	わかりました。指導主事の話ですね。
教育総務課課長 補佐（富田）	はい、そうです。指導主事の方をこの表にあてはめて決裁をするしかないものですから、その意味で掲載しました。
教育長	学校の教職員は関係ないですね。
教育総務課課長 補佐（富田）	学校は関係ありません。
後藤委員長	ほかにございませんか。
石井職務代理者	同じ3ページなのですが、附則の部分の「この訓令は」とあるのですが、ここは「この規程は」ではないでしょうか。3ページの一番上の附則ですけれども「この訓令は、公布の日から施行する」とあるのですけれども、「この規程は」ではないですか。
教育総務課長	この決裁規程は「決裁規程」という名前がついておりますが、教育委員会訓令第何号として発しますということで、そのような理由です。
石井職務代理者	わかりました。
	議案第25号及び議案第26号について、出席者全員の賛成を得る。
後藤委員長	次に、報告第9号「牛久市放課後対策施設の設置及び管理に関する条例施行規則の一部を改正する規則について」事務局より説明をお願いいたします。
放課後対策課長	報告第9号「牛久市放課後対策施設の設置及び管理に関する条例施行規則の一部を改正する規則について」ご説明させていただきます。 現在、児童クラブからの児童の帰宅につきましては、児童の安全の確保を最

	<p>優先に保護者等のお迎えをお願いしているところではありますが、今回児童の安全を確保しながら利用する保護者の利便性の向上を目指しまして、届け出制により保護者の送迎免除を認めるべく規則の改正をいたしました。</p> <p>なお、運用に当たりましては1人による登下校については届け出を受理しないなど、引き続き児童の安全確保を最優先に運用を図っていきたく考えております。</p> <p>以上でございます。</p>
後藤委員長	<p>続きまして、協議事項に移ってまいりたいと思います。</p> <p>牛久市立第一幼稚園の運営について、事務局より説明をお願いいたします。</p>
教育総務課長	<p>前回3月の定例会に引き続きまして、牛久市立幼稚園運営協議会のほうからいただいた中間答申につきまして、教育委員会としての第一幼稚園の運営について、今後の方針についてご議論いただきたいと存じます。</p> <p>まず、お配りした資料に沿って私のほうからご説明させていただきます。</p> <p>資料で①番から④番まで追加資料をごらんください。</p> <p>資料のほうは前後しますが、まず資料の3番、4番が幼稚園関係のデータ等について簡単にまとめさせていただいたものでございます。まず4番の資料をごらんください。</p> <p>こちらの4番の資料については、平成27年度の学校基本調査ということで昨年5月1日の状況、茨城県のデータでございます。まずここでごらんいただきたいのが一番上の表でございます。これは、表示はないのですが公立のこども園、幼稚園、小中学校という表になっております。まずこども園を見ると、県内には9園の公立の幼保連携型認定こども園がございます。その下の段、幼稚園につきましては157園ございます。地域ごとの内訳も出ておりまして、水戸地区が59園ということで一番多いのですが、県南地区については34園ということで2番目に多い状況になっております。</p> <p>真ん中を飛びまして一番下の表、こちらにつきましては幼稚園の設置者別、国立、公立、私立の設置者別の割合がわかります。園児数を見ますと、全体で2万8,413人のお子さんを預かっている中で公立では8,213人、割合にすると全体の28.9%を預かっているというのが県内の状況でございます。私立が70.7%という割合になっております。これは同じ時期で全国のものも発表されておりまして、全国の部分でいくと37%くらいが公立で収容しているといったデータもございます。</p> <p>続きまして、資料の3番をごらんください。</p> <p>こちらは過去にも何度かお示しした資料とダブる部分もございましてご了承ください。中段より下の部分、子ども子育て支援事業計画における市内幼稚園の量の見込みと現状ということで、こちらについては子ども子育て支援事業計</p>

画の中で保護者の方にニーズ調査を行った結果から、幼稚園に関するニーズがどのくらいあってどのくらい確保されているかというのを示した表でございます。ニーズ調査は、平成25年の12月17日から1カ月間、未就学児の保護者1,500人、小学生児童の保護者1,500人、合わせて3,000人に対して調査を行いまして、回収率といたしましては未就学児が58.1%、小学生の保護者が53.4%といった結果でした。

これを見ますと、まずニーズの量として①番、量の見込みという欄がございます。平成27年で1,623、それが1,606、1,629、1,631と伸びていまして、平成31年に1,655という形になっております。これに対してどれだけの定員を確保しているか確保方策ですが、こちらが1,734から1,699、1,699、1,699という形になっております。差し引いてみると、平成27年度では111の超過という形になっております。施設のほうが超過になっております。ただ、ここで注目したいのは平成30年、31年ですが、ここで30年が68、31年が44という形になっております。いずれもこれだけの余裕があるということですが、今第一幼稚園の定員70名、これが入っておりますので、それがなくなってしまうと逆に不足に転じるということが読み取れます。

続きまして、その下の表ですが、こちらは市内の定員と平成27年5月の園児数でございます。公立の部分に注目しますと105名の園児を収容しているということで、全体で1,070名に対するパーセンテージとしては9.8%の園児を収容しているということでございます。先ほど④番の資料のほうで県内の状況では28.9%、全国では37%程度が公立の割合ということでございましたので、決して牛久市の状況、公立の割合が多すぎるという状況ではないということが確認できるかと思えます。

裏面に移りまして、一番上の表ですが、こちらは公立幼稚園の運営状況のうち県南地区の状況でございます。公立幼稚園は県内全域で157園、うち県南地区が水戸に次いで2番目に多い34園ということでご説明いたしました、その内訳としてはこの表のようになっております。つくば市がやはり一番多くて18園という形になっております。規模が大きいのは、つくばみらい市が168名、美浦村は1園だけですのでこれが大きい168名という規模になっております。牛久市の園児数を平均してみると52.5名ということで、大体平均的な規模かなということが言えます。

下のほうに対峙する形で県内の公立の認定こども園、先ほど全部で9園と申し上げましたが、その状況でございます。こちらのほうで読み取れるのは、認定こども園のほうは1園当たりの園児数がやはり幼稚園よりも多目になっているということで、今後のことを考える場合には、やはりこども園のニーズというものも高いということ念頭に置いておかなければならないということが言えるのかなということでございます。

下から2番目の表ですが、これは参考までに幼稚園の授業料の状況を調べた

ものでございます。牛久市の欄、ゼロから4,000円ということで訂正いただければと思います。所得階層別に差をつけた料金になっております。これで見るとれるのが、県内の状況といたしましては全般的に何千円台という公立の料金を定めている形が読み取れるかと思えます。一方で、大都市においては今回子ども子育て支援の新制度が始まったことによりまして、新しい制度体系の中では所得階層できちんと差をつけていることから、官民同じ料金体系を適用させようとして今段階的に引き上げを行っているという状況も見てとれます。ただ、やはり県内の状況を見ると、公立は公立の料金というのを少し私立より低めに抑えた中で所得階層ごとの料金体系を定めているという状況でございます。

それと、一番下の表になります。こちらはちょっと想定が荒っぽいのですが、牛久市の平成26年の決算時点での財政資質、これは表側にありましたように歳入歳出差引で約5,400万円程度持ち出しがございまして。仮に授業料を、私立の上限というのは牛久では2万円ですので6割と想定して1万2,000円程度と想定して、階層も毎年変わるのであくまでも想定ですが割り振ってみると収入が700万円程度増ということになり、財政資質は4,700万円程度まで縮小されるという状況でございます。若干決算額からすると人件費が少し、さらに減っておりますので4,000万円前後の見込みになるのかなという想定をしております。

以上が幼稚園に関連するデータのなところをまず説明させていただきました。

次に資料の②番をごらんください。

こちらについては、前回3月28日の教育委員会定例会においても本件について協議事項としてご協議いただいたところですが、その意見交換要旨でございます。まだ、会議録のほうはでき上がっていないのですが、音声データから直接抜き出してみました。中間答申の理由として幾つかの柱立てがありましたので、その柱ごとに分類してみましたので発言順はバラバラになっております。一読させていただきます。

3月28日月曜日、教育委員会定例会。

牛久市立幼稚園運営協議会中間答申に関する意見交換要旨ということで、まず幼児教育センターと実践の場の必要性に関するもの。意見といたしまして「幼保連携型を機能させるためにセンター的な機能があつたほうがよいと考えられる」「センター機能があつたほうがよいということに異論はなく、これを有効に機能させるためにどうするのがよいかを一緒に考えなければならない」「センター機能の有効な展開のための考えも織り込んだ上で、この方向性は必要かと思われる」「幼児教育センターは保育士や幼稚園教諭の研修やストレスを解消するための相談、親への家庭教育という部分で必要と思う」。

次に、保護者の多様なニーズへの対応という部分でのご意見でございます。「選択の幅ということであれば、こども園のニーズに対するものの方が優先度

が高いと思われる」「小中一貫教育を考えていく必要があるのではないか」「10年近く保幼小連携に取り組んできて先生の研修、保護者の相談会、児童の交流会などを行ってきた先生の勉強の場、保護者の相談の場になっている現状がある。第一第二幼稚園を見ると迎えに来た保護者が先生たちに相談している姿が見受けられるので、存続がよいかと思う」。

次に、通園時間、手段のニーズという部分でのご意見に分類したものです。「ひたち野地区は、未就学児がこれからふえるので周辺にあってほしいが、私立幼稚園が1園あり、どちらかといえば中根岡田地区のほうにニーズがあるかとも思える」「保護者のニーズに対して選択肢を確保するというのであれば、保護者から見て牛久市は非常に優しい市であると感じる」。

裏にいきまして、セーフティネットとして地域に根差す必要性という理由が上げられたものに対応したご意見と捉えられたものです。「全ての子供が平等公平で格差のない就学前の教育を受けられるよう、教育の機会均等を保障し、公教育の基盤として幼稚園を位置づけるという趣旨がこの項目ではないかと思われる。幼小中一貫の教育の基盤として幼稚園を位置づけるとなると、公立幼稚園は非常に大事になり、教育委員会がこの考えをとることでクローズアップされてくる」。

次に、受け皿の数。答申のほうでは、幼稚園ニーズに対する受け皿の数からの必要性という部分に対応するものです。「将来的な受け皿が足りないということがわかっていて、民業圧迫にならないのなら、公的に受け皿を保証してあげることが必要である」。

次に、こちらは全体を通してということで分類をさせていただきました。「センター機能とセーフティネットの概念はつながる部分があり、そこを考えると公立幼稚園が将来ふえる可能性も考えられる」「幼児教育に市がしっかり関与していくなら、1園でその機能を果たすのは難しいと思われる。その意味から幼稚園は公的なものがしっかりとあってしかるべきである」「公立幼稚園ならではの位置づけは牛久市全体から見ても必要であり重要。全ての子供を平等にということからもこの方針で進めるべきと思う」「教育委員会としては信じる答えを叫び続ける必要がある一方で、教育行政の中で他のさまざまな施策がこのために削られることがあってはならない。教育委員会として結論を文章でまとめるにはもう一度協議したい」。これは、前回の時点でもう一度協議したいといったご意見です。「運営費用に関して年間5,000万円のマイナスということだが、費用にかかわらず教育の理想像を叫びたいと思う反面、子育てから退いた高齢者からはもっと別のお金の使い道をという声もあると思われるので、そういった声に阻まれることのないよう、運営費用については正確に把握しておきたい」。

以上、前回のご意見を再度ご紹介させていただきました。以上のようなことを踏まえまして、幼稚園運営協議会からいただいた中間答申の内容について、牛久市教育委員会としてどう受けとめ、方向づけるかという点についてご協議

後藤委員長	<p>いただきたいと存じます。よろしくお願いいたします。</p> <p>ありがとうございました。一月前の各委員からのご意見等々までも整理いただいて改めてご発表いただきましたので、それぞれよく頭の中が整理整頓できたのではないかと思います。一月たったところでそれぞれ委員の方々のご意見を頂戴できればと思います。本日は割とデータのなささまざまなものを拾い上げていただいて、これはいずれも公立幼稚園は体制維持の方向で問題がないというような考え方に結びつけることのできるような資料をデータとしておつくりいただいたというふうに見てとれますが、それぞれ本日のところではいかがでしょうか。石井委員、お願いします。</p>
石井職務代理者	<p>これまでの議論を補強していただけるようなデータを今日そろえていただけたなと思っています。数値的な裏づけとしては、これだけのものがあるのであれば、やはり教育委員会としては整備する方向でいくのが適当ではないのかと感じました。</p>
後藤委員長	<p>ありがとうございました。芦田委員、どうでしょう。</p>
芦田委員	<p>私も石井委員と同じで、子育てに優しい市をうたう以上、これ以上ない結論だと思います。</p>
後藤委員長	<p>ありがとうございました。五十嵐委員、どうでしょう。</p>
五十嵐委員	<p>私もやはり将来的に幼小中一貫して教育していくというものから見ても、幼稚園の存続は必要だと思います。</p>
後藤委員長	<p>ありがとうございました。染谷委員、いかがでしょうか。</p>
教育長	<p>改めて法令等を読みますと、平成18年に教育基本法が変わって幼児教育が位置づけられて、平成19年に学校教育法も変わって幼稚園教育が義務教育からその後の教育に非常に大切だという位置づけを新たに提示したのかなという気がします。幼小中という教育の流れが、その後の進学率や貧困からの脱出やまちづくりといったさまざまな面で、幼児期の投資が大事なことなのかなと考えます。</p> <p>あとで、課長が報告するのですか。今年度の「牛久の教育方針」というもので先生方にお示しするものですが、保幼小連携から小中一貫というふうに保育園、幼稚園、小学校、中学校が一貫して学びをつくっていきましょと提案しています。また「地域とともにある開かれた学校づくりの推進」ということもありますように、地域へ情報を発信するだけではなく、地域とともに子供たち</p>

<p>後藤委員長</p>	<p>を育てていきたいと思いますという流れも示しました。地域とともに保幼小中をずっと支えて育てていくという教育を大事にしていく中に公立幼稚園の存続というのも位置づけていいのかなと考えました。</p> <p>以上です。</p> <p>ありがとうございました。幼稚園に関しては今現在ちょっと確かなところは調べないと不正確になるかもしれないですが、平成20年度の学習指導要領にのっとって今日現在の教育というのが展開しているのだと思うのですが、今、平成30年の学習指導要領の改定に向けてのさまざまな議論というのはウェブ上で確認することができるのですが、その中で昨年度から今年度にかけてキーワードとしてこの地域社会との連携というのは非常に目立つようになってきたことがございます。牛久市奥野地区に関してはコミュニティ・スクールの方向に昨年度の促進事業からスタートいたしまして、今現在コミュニティと学校教育というもののあり様、新しいあり方みたいなものを模索するという本腰を入れた作業に入っているわけです。それと重ねあわせたときに、では幼稚園はどうか、保育園はどうかというところまで含めた形での地域社会との教育課題をめぐる新しい連携のあり様のようなものを構築していく必要というのが、ここへきて強く叫ばれ始めているのかなと感じます。本市にとってもそういう捉え方をしていく必要がここへきて出てきているなど強く感じます。</p> <p>それを考えたときに、やはり公立であることの意味というのは大きいですから、公立幼稚園を残すということ。きょうもこの運営経費の問題等々、現実的にクリアすべきさまざまな問題というのはございますが、とりあえずこの公立幼稚園の体制に関しては、私自身も協議会の答申を受け入れるという方向で教育委員会としての答えとしたいと考えます。</p> <p>いかがでしょうか。</p>
<p>教育長</p>	<p>追加なのですが、先ほど牛久第二幼稚園と牛久小学校は幼小連携のスタートカリキュラムというカリキュラムをつくり、それを次第に広めています。そういったところを見ても幼児教育センターという動きを公立が担うべきかなと思いますので、そういった点からも答申を尊重していきたいなと思います。</p>
<p>後藤委員長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、答申を受け入れるということで決定させていただきます。（「はい」の声あり）</p> <p>教育委員会としての文章については、私のほうに預らせていただければと思うのですがいかがでしょうか。（「はい」の声あり）</p> <p>それでは協議事項、この件については教育委員会として決定をいたします。よろしく願いいたします。</p> <p>以上で本日の議事は終了いたしました。</p>

後藤委員長	<p>続きまして、教育長の報告をお願いいたします。</p>
教育長	<p>新年度がスタートしまして先ほども話しましたように、小中一貫で9年間を見て子供たちの育ちを地域とともに進めていこうという方針であります。これまでの協働という学びで進めてきた学び合いというものが、今後の学習指導要領でアクティブ・ラーニングという形で示されました。</p> <p>なぜ示されたかという、新しい時代の新しい学力を育てるためには一斉指導だけではだめだという国の方針もありますので、そういった方針に沿って市のほうも進めていこうと思っています。</p> <p>方針の1つは学習要領の改訂に沿った新しい学力、アクティブ・ラーニング。それから生涯学習事業から出ていますような地域との連携、協働、そういったものを含めながら校長先生方の自主的な学校経営を前面に出して進めていこうと思っています。校長先生方は小中の連携の上で保護者と話し合い、地域と話し合いながらその学校独自の教育を進めてもらえればよいと思いますし、教育委員会としましても校長先生がtの経営をバックアップしていこうと思っています。</p> <p>1つのモデルとしては奥野小のモデルがあります。奥野小、二中を一つのモデルにしながら各中学校区ごとに、子供たち、保護者、地域に合った教育を徐々に展開していった欲しいということで今年度はスタートしております。</p> <p>以上です。</p>
後藤委員長	<p>ありがとうございました。それでは、課長のほうからお願いします。</p> <p>文化芸術課 由紀さおり・安田祥子ファミリーコンサートについて シャトーカミヤの災害復旧工事終了に伴う今後の日程について</p> <p>生涯学習推進室 うしく鯉まつりについて 牛久郷土かるたプレミアム版について</p> <p>指導課 平成28年度牛久市学校教育指導方針について 教育委員学校訪問について 下根中学校の文部科学大臣表彰について</p> <p>教育総務課 平成28年度定例会の日程について</p> <p>中央図書館 図書館だよりについて</p> <p>スポーツ推進課 牛久運動公園野球場の無料開放イベントについて</p>

後藤委員長	<p>以上で4月定例会を終了といたします。</p> <p>次回定例会は5月23日月曜日、市役所分庁舎第1会議室、14時での開催となります。よろしくお願いいたします。</p>
-------	--